

刈田町立図書館 新着推し本紹介のコーナー

11月の推し本



『オンラインでズバリ伝える力』

佐藤 綾子 // 著 幻冬舎 請求記号 336.4/サ/ 資料番号 610123887

<https://ilisod001.apsel.jp/lib-kanda-fukuoka/wopc/pc/OpacServlet?disp=searchResultDetail&id=00601869>

【紹介文】新型コロナウイルスの流行により急速に広まったテレワーク。その中で、ZOOMなどを利用したオンライン会議・ミーティング・研修など様々なことがオンラインで行われています。対面の場合「視覚・嗅覚・味覚・触覚・聴覚」と五感で相手の心理や情報などを得られるのに対してオンラインでは「視覚と聴覚」のみ。対面の時とは違う伝え方が必要になります。本書ではそういったオンラインで伝えるコツが書かれています。髪型や服装・話すスピード・声の強弱・言葉癖についてなど参考になることが書かれています。オンライン会議などで疑問や悩みがある方におすすめの一冊です。

『未来をつくる道具わたしたちのSDGs』

川廷 昌弘 // 著 ナツメ社 請求記号 519/カ/ 資料番号 610124935

<https://ilisod001.apsel.jp/lib-kanda-fukuoka/wopc/pc/OpacServlet?disp=searchResultDetail&id=00601744>

【紹介文】SDGsとは「Sustainable Development Goals」の略。読み方はエスディー・ジーズ。日本語では「持続可能な開発目標」と言います。2015年に採択され、2016年～2030年までの15年間で世界が達成すべき17のゴールを表したものです。具体的で豊富な実践例がオールカラー、写真たっぷり、大事なところにはマーカーまで引いてくれています。最近よく耳にするけど環境問題のこと？くらいしか思っていなかった私や、これから学びたい、理解したいという人におすすめです。17のゴールひとつひとつが”他人ごと”ではなく”自分ごと”になることが大切なんだ、と本書から伝わってきます。

『本当はごはんを作るのが好きなのに、しんどくなった人たちへ』

コウ ケンテツ // 著 ぴあ 請求記号 596/コ/ 資料番号 610124463

<https://ilisod001.apsel.jp/lib-kanda-fukuoka/wopc/pc/OpacServlet?disp=searchResultDetail&id=00602016>

【紹介文】タイトルを見て、「これは私のことだ...」と感じる人は多いと思います。そういう方にはもちろんおススメですが、そもそも食事を作るのが苦手で、そのことに罪悪感のある方にも読んでもらいたい本です。イケメン料理研究家として第一線で活躍してきた著者が、環境変化という自分の経験から「頑張りすぎなくていいんじゃない？」に気づき、本書で提唱しています。第一章のタイトル『「ねばならない」にさようなら』が、まさにそれを表しています。そして、もちろん役立つレシピつき。料理をせずに出された料理を食べて文句を言うだけの人にも、ぜひ読んでほしい。

『志村けん160の言葉』

志村 けん // 著 青志社 請求記号 779.9/シ/ 資料番号 610122012

<https://ilisod001.apsel.jp/lib-kanda-fukuoka/wopc/pc/OpacServlet?disp=searchResultDetail&id=00601462>

【紹介文】稀代のコメディアン、志村けんさんの言葉を集めた一冊。2020年3月29日。あまりにも突然の訃報に、いまだに実感が沸かないって方も多いのではないのでしょうか。わたしもそのひとりです。本当にコロナが憎い...

この本では志村さんの幼少期からの素顔や、ドリフターズ時代のことなどが時系列に語られています。

『天才なのに努力の人』そんな志村さんの言葉の数々に背中を押され、頑張る勇気が湧いてきます。

『(読んだふりしたけど)ぶっちゃけよく分からん、あの名作小説を面白く読む方法』

三宅 香帆 // 著 笠間書院 請求記号 901.3/ミ/ 資料番号 610125072

<https://ilisod001.apse.jp/lib-kanda-fukuoka/wopc/pc/OpacServlet?disp=searchResultDetail&id=00602133>

【紹介文】毎年、夏になると各出版社からは「〇〇の100冊」と題うって古今東西、おすすめの本のリストがでます。実際、手にとって読んでみたものの「わかった。おもしろかった。」と理解できたのだろうか。この本、タイトルのとおり「あの名作小説を面白く読む方法」が書いています。読解力とか想像力とか言わず、読み方を少し変えて、読む技術を使い、コツをつかむ。「羅生門」や「若草物語」も違う視点から読めば「読んだフリ」にならずに読めるのでは。

『英国ロックダウン100日日記』

入江 敦彦 // 著 本の雑誌社 請求記号 916/イ/ 資料番号 610125031

<https://ilisod001.apse.jp/lib-kanda-fukuoka/wopc/pc/OpacServlet?disp=searchResultDetail&id=00602129>

【紹介文】全世界がコロナ禍によって普段の生活から経済活動まで制限される中、私たちは協力し、乗り越える工夫をしている。実際、ネット配信や、ZOOM会議など違った形を模索するといった動きは多くの職場や場面で見られるようになった。それでも、人と人との交わりを求めてしまう、人間だもの。

この本ではロンドン在住の京都人が、イギリスで「都市封鎖政策」の時期に何を思い、何を願い、何に怯え、何にすがったかを日記形式で綴っている。

『7年目のランドセル』 (児童書・国どうしのつながり)

内堀 タケシ // 写真・文 国土社 請求記号 372/ウ/ 資料番号 620042903

<https://ilisod001.apse.jp/lib-kanda-fukuoka/wopc/pc/OpacServlet?disp=searchResultDetail&id=00600147>

【紹介文】6年間背中に背負われて卒業したランドセルが海外のアフガニスタンで7年目に新たな入学式を迎えているという。確かにランドセルは6年使われてもまだまだるかえるくらい丈夫だと思う。捨てるにはもったいないなあ思う。が、海外で第二の人生を迎えているということには、驚いた。勉強道具を入れることはもちろん、ひざの上に置いて机代わりにもなるのだという。そして、こわれた戦車の横を背負われて学校まで行く。平和な日本に住んでいる私たちよりも世界のことをよく見ているランドセルたちかもしれない。いまだ戦争やテロの絶えない国ではあるけれど、子どもたちの笑顔と自然はとてものがやいている。うつくしい写真絵本でもある。

『きみの声がききたくて』 (児童書・ものがたり)

オーウェン コルファー // 作 文研出版 請求記号 933/コ/ 資料番号 620044883

<https://ilisod001.apse.jp/lib-kanda-fukuoka/wopc/pc/OpacServlet?disp=searchResultDetail&id=00601016>

【紹介文】子犬は、人からいじめられて声を出すこと・ほえることをやめてしまい、人を信じることもできなくなってしまう。その子犬に出会ったのは、だいすきなお父さんとはなれることになってしまった男の子のパトリック。つらい気持ちを持ったふたりは、おたがいによりそって、きもちをあたためあっていくうち親友になっていく。どちらかが苦しくなった時には、相手を思いやり、元気になるようはげまそうとするふたりはとてすてきにみえた。



問い合わせ先

苅田町立図書館 ☎093-436-0946

開館時間：9：30～17：30 (木・金は19：00まで。本館のみ)

ホームページから蔵書検索もできます



(2020.11.6発行)